

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
1	参考資料4	全体	—	—	全体より当事者の回答割合が特に高い項目について、政策評価シート2-4の「市内に高齢者が生きがいや役割を持ち、安心して暮らすことができる環境があると感じるか」で「在宅サービス」、「市の相談体制」と回答した当事者の割合は、肯定・否定とも全体より高い傾向となっているため、丁寧な分析が必要かと思う。	菊地委員	全体より当事者の回答割合が、肯定・否定ともに高い項目は、当事者の関心が高い項目と考えられるため、当事者の回答結果について丁寧に分析のうえ、政策評価シートにおける考察を修正してまいります。	—
2	参考資料4	全体	—	—	市民アンケートは令和3年の12月頃、1年前に実施されたものであるため、当時の社会状況がアンケート結果に反映されている部分もあるかと思う。 例えば、政策評価シート2-2の「市内に安心して出産・育児ができる環境があると感じるか」の「商業施設などのあそび場」については否定が高い割合となっているが、1年前の商業施設などは感染症対策のため色々と制限があったと思うため、その辺りの背景も丁寧に分析できるとよいと感じた。	菊地委員	市民アンケートの結果については、調査時における社会・経済情勢の影響を受けていると考えられ、これらの影響も考慮し、政策評価シートにおける考察・分析を行っております。	—
3	資料2 資料3	全体	—	—	図表においてn数がなく正確に読み取れないところがあるため、丁寧に分析いただきたい。	岩崎委員	ご意見を踏まえ、グラフ・表などの表記を見直します。	—
4	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p.1 p.9	客観指標 建物の延焼率	建物の延焼率は低い方がよいという認識だが、目標値が高くなっている。ダウン指標の場合の書きぶりは難しいと思うが、書きぶりは検討いただきたい。	菊地委員	ご意見を踏まえ、指標の目標値、評価等がわかりやすくなるよう修正します。	p.9 関連する客観指標 <u>建物の延焼率は、建物火災の件数のうち、延焼した件数の割合を算定しており、目標値は過年度3か年平均の延焼率の傾向をもとに設定している。延焼率は気象状況、火災の原因などにより大きな影響を受けるものであり、R2末値は目標に対し概ね達成となったが、H29以降、延焼率は年々高まっているため、個々の要因を分析する必要がある。</u>
5	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p.4	消防団活動	消防団活動について認知度が低い結果がでており、充足率も満たしていない状況。 市として消防団に何を求めるか、消防団員の役割など機能の整理をすることが必要ではないか。 市が消防団員に求める機能と消防団員がやっていることの乖離がないか、過去の災害において消防団員が実際にどのような役割を担ったのかなども含め、千葉市における消防団のあり方を検証し、認識を共有することが重要と考える。	松永委員	ご意見を踏まえ、考察において、消防団のあり方の見直しに関する記述を追記します。	P7 考察 ・いずれも町内自治会等の地域団体が発災時に地域住民を守る仕組みだが、担い手となる地域団体の中心的な役割を果たす人物の負担感の大きさが、事業推進の共通の支障となっていると考えられる。 ・ <u>消防団は地域に密着し地域の防火・防災における多様な活動により重要な役割を担うことから、参加しやすい環境づくりや報酬単価の引き上げなどにより、担い手の確保に取り組む必要がある。</u>
6	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p.4	消防団活動	報酬の引き上げだけではどうにもならないと思う。地域で活動される方は消防団の役割が複雑であるが学ぶ機会がないために、幅広く防災に関心のある人が消防団を選ばないといったことがあるので、多様な学びの機会のバックアップとともに消防団がどこまでできるのか、議論が必要だと思う。 一方、火災の初期消火は分単位の問題であり、これまでの活動も重要だと思うのでメリハリも必要かと思う。 また、やみくもに機能を増やすことは縦割りにつながりかねないので、自主防災組織などと連携して活動する取組みなども考えていく必要があるのではないか。	浅野委員	ご意見を踏まえ、考察において、消防団のあり方の見直しに関する記述を追記します。	P7 考察 ・いずれも町内自治会等の地域団体が発災時に地域住民を守る仕組みだが、担い手となる地域団体の中心的な役割を果たす人物の負担感の大きさが、事業推進の共通の支障となっていると考えられる。 ・ <u>消防団は地域に密着し地域の防火・防災における多様な活動により重要な役割を担うことから、参加しやすい環境づくりや報酬単価の引き上げなどにより、担い手の確保に取り組む必要がある。</u>

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
7	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p. 4	避難所名簿	評価指標について、避難者名簿の提供率を向上するなどは難しい面がある。 そのため、質的な面をもっと評価した方がよい。女性委員の参加率が高いことやライセンス講座では幅広い方に参加いただいているなど、このようなことも評価していく方向にシフトしていくとよいと思う。	浅野委員	ご意見を踏まえ、次期実施計画におけるKPIとして、避難所運営委員会の女性委員率、防災ライセンス講座の受講者数などの指標の導入について検討します。	-
8	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p. 4	避難行動要支援者名簿	避難者名簿については、災害が起こる前は共有できないが、発生後は関係者に共有して良いこととなっている。地域のリーダーにとっては重責となり一人で抱えきれないものと考えられる。 避難時だけではなく、避難生活期における安否確認に使うこともできるので、避難生活時にも使えますと別の用途があることを伝えていくことも重要ではないか。他都市では金庫に保管しており、避難生活期に使うケースもあるので、参考にしてはどうか。	浅野委員	ご意見を踏まえ、避難所行動要支援者名簿については、事業の実施にあたり、必要な情報の提供及び運用の見直しを検討してまいります。	-
9	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p. 4	避難行動要支援者名簿	独自に名簿を作成しているとあるが、実質的に名簿があるのであれば行政と上手く連携できれば達成率に含めてよいのではないかと。	岩崎委員	団体が独自に作成している名簿については詳細に把握できておらず、内容や様式が様々であるため、本市で定める避難行動要支援者名簿の提供率から除外しております。未提供団体に対しては、平常時から名簿を活用した取組事例や他地域団体の好事例の紹介、個人情報の取り扱い方法について説明するなど、引き続き働きかけを行ってまいります。	-
10	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p. 4	避難行動要支援者名簿	避難者名簿について、民生委員からお聞きすると、個人情報保護の観点から提供できないと思われる方が多いと思われる。 その辺りの認知が不足しており、提供に至らないということもあると思うので、提供に至らない理由を丁寧に聴き取りたい。	石丸委員	ご意見のとおり、名簿の提供にあたっては、個人情報の取り扱いや制度内容について理解が進んでいないことなどが提供に至らない理由と考えており、地域団体に対して周知に努めてまいります。	-
11	資料2	4-1 市民の安全・安心を守る	p. 4	地域・公的機関による備え	教育でESDについて学んでる場合、避難所運営に子どもが積極的に参加したということを知った。 若い世代の力を防災に積極的に使うこともよいのでは。	岩崎委員	ご意見のとおり、若い世代の力を積極的に活用することは重要であると考えますので、今後の課題として検討してまいります。	-
12	資料2	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	p. 27	バス	バスについて 一般的にバス路線が廃止されたところはコミュニティバスが運行されていると思うが、車を利用していた方が加齢等により免許を返上し、通院や買い物に困り公共交通を必要とするといったケースもある。 アクセス性だけでなく、どういう人が実際に公共交通のアクセシビリティが低下するかとこのところも勘案した上で、コミュニティバスの運行も含め考えていただきたい。	松永委員	市においては、民営のバス路線廃止後に発生する公共交通不便地域の解消に向けて、需要等を踏まえながら、的確な移動手段（コミュニティバス、デマンド交通等）の導入に地域と共に取り組んでおります。 また、高齢による身体の衰えや障害等により公共交通を自力で利用することが困難な方を対象に、NPO法人や社会福祉法人等が実施する福祉有償運送事業の運営を支援することなどにより、その充実に努めているところです。 これらのことから、本市における移動ニーズへの対応については、ご意見の主旨を踏まえつつ、今後も交通・福祉の両面で連携して取り組んでまいります。	-

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
13	資料2	4-3 ひと・モノ・情報が つながる基盤をつくる	p. 34	(自転車の走行環境) 「自転車が交通ルールを守っている」	市民アンケートで、「交通ルールが守られていない」という回答が多かったが、市民がルールを知っている前提という点が気になる。 現状、自転車ルールは複雑になっており、自転車側が危険に思えば歩道を走って良いなど曖昧な部分がある。そのため、ルールが正しく認識されていないことが否定の回答につながっていると思われるが、どのように捉えているか。	鈴木委員	市民アンケートの結果については市民の自転車マナーに対する印象も影響していると考えられるため、今後のアンケートにおける質問内容を検討いたします。 また、ご意見のとおり、自転車の交通ルールに関する否定的な評価は、市民が自転車の走行ルールを理解していないことが一因になっていると考えられるため、幅広い年齢層に対するルールの周知に取り組んでまいります。	-
14	資料2	4-3 ひと・モノ・情報が つながる基盤をつくる	p. 33	(自転車の走行環境) 「自転車レーンなどの走行空間がある」について	自転車レーンの整備実績は49.3kmとなっており、目標である50kmをほぼ達成している状態ではあるが、否定的評価であるのは自転車レーン自体が少ないと評価されているのかと思った。 この目標である50kmというのは、千葉市内の総延長道路のおおよそ何%ぐらいであるのか。	鈴木委員	自転車レーン等は、ちばチャリすいすいプランに基づき、自転車交通量や自転車関連事故が多い路線を優先して自転車ネットワークの構築を進めており、令和3年度末の整備済延長は約65kmで、市が管理する道路総延長約3,365kmの約2%、令和25年までに整備を目指す自転車ネットワークの計画延長約250kmの26%にあたります。 この整備済延長は現時点での目標値を達成しており、引き続き整備に努めてまいります。	-
15	資料2	4-3 ひと・モノ・情報が つながる基盤をつくる	p. 34	(自転車の走行環境) 「自転車が交通ルールを守っている」	ヘルメットについて、着用が努力義務になったと報道で聞いたが、千葉市はどのように考えているのか。	岩崎委員	自転車利用時のヘルメットについては、H29.3月に策定した「千葉市自転車を活用したまちづくり条例」により、着用が努力義務となっており、安全利用講習会などにおいて周知に努めております。	-
16	資料2	4-2 快適な暮らしの基盤をつくる	p. 20	市営住宅の整備	バリアフリーについて、千葉市は大規模団地が複数あることが市の特徴かと思う。 エレベーターがない団地もあり、バリアフリーといってもエレベーター設置は難しいと思うが、建て替えの際にケアできているのか確認したい。 高階層の高齢者の外出支援の観点からも検討しては。	石丸委員	住宅団地の比率が高いことは本市の特徴の一つであり、総人口の約3分の1にあたる約33万人が住宅団地に居住しております。 高齢者の外出支援の観点からも住宅団地のバリアフリー化は重要であることから、ご意見を踏まえ修正します。	p. 21考察 5ポツ目 ・今後の高齢化の進行により、～中略～ 自宅をバリアフリー化することは一層重要になっている。市としても、バリアフリー化が必要になる年齢、身体状況の人に対し、介護保険住宅改修や高齢者住宅改修費支援サービス等の補助制度を効率よく的確に周知するとともに、 <u>入居者が安全に安心して居住できるよう市営住宅のバリアフリー化を進める必要がある。</u>
17	資料2	4-3 ひと・モノ・情報が つながる基盤をつくる	p. 35	ICT	ICT分野について、記載が充実していないように感じる。千葉市の方向性としてこれでよいのかと感じる。	石丸委員	今回の政策評価においては、ICTの客観指標として電子申請サービスの手続数やオープンデータの活用事例等を設定し、評価を行っているところです。令和5年度から始まる基本計画では、デジタル技術の活用、デジタルデバイド対策などを位置づけているところであり、地域のデジタル活用に向けた取組みを進めてまいります。	-

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
18	資料3	5-1 都市の魅力 を高める	—	—	都市の魅力を高める 評価基準について、ハード整備関係が多いことが気になる。消費により都市競争力を競うことは陳腐化していると思う。 下北沢のように、多くの人が作り手になり、まちを使うことが重要視されていると思う。 まちにどれくらいの時間滞在しているかや、まちに何をしに来ていますかといったものを盛り込めるとよいと思う。 目的のためだけに行くのではなく、なんとなくまちに行きたくなる、まちを楽しめるかということを探っていくのがよい。	林委員	ご意見のとおり、都市の魅力を高めるためには、社会基盤の整備とともに、まちにおける市民等の過ごし方が重要になると考えております。 まちの過ごし方に係る分析・評価については、次期計画の政策評価を行う際に、検討してまいります。	—
19	資料3	5-1 都市の魅力 を高める	p. 12	魅力的な文化・芸術施設	千の葉の芸術祭については、市民アンケートの結果だけではなく、多面的な視点で評価した方がよいのではないかと。	岩崎委員	ご意見を踏まえ、千の葉の芸術祭に関する考察を追記します。 なお、千の葉の芸術祭については、来場者アンケートの結果や今後の検討事項などを報告書としてまとめており、今後の芸術祭の開催にこれらを活かしてまいります。	p. 12 考察 ・市美術館を拡張し、常設展の開催や市民活動スペースの提供を行ったほか、幕張新都心においては、令和3年度に、市制施行100周年に合わせ本市初の芸術祭である千の葉の芸術祭の一環として、「生態系へのジャックイン展」を実施するなど、積極的な展開を図ってきたものの、市民の肯定的な実感には至らなかった。 <u>一方で、参加した方からは、文化芸術を気軽に体験・鑑賞できる取組みとして評価され、市の文化・芸術の魅力を発信する機会となったことから、今後、継続的に文化・芸術に触れあう機会を創出していく必要がある。</u>
20	資料3	5-1 都市の魅力 を高める	p. 5	海浜幕張駅周辺エリア	幕張のまちづくりについて、市がまちづくり将来構想を策定したが、その内容はバラ色になっている。一方、住民としては黄昏感が強くなっているため、危機感を持った方がよいのではないかと考えている。 幕張を「ここにしかない新しさが生まれるまち」としているが、現状は何も無いと考えている。 まちづくり協議会を発足し、幕張をどうしたらよいのかをしっかりと考えた方がよいのではないかと。 幕張地区のまちづくり協議会の創設に向けた音頭取りを県とともにお願いしたい。	松永委員	昨年8月に策定した「幕張新都心まちづくり将来構想」における取組方針の1つに「関係団体等の活動が連携・拡大し、一体となってまちづくりを進めることができる仕組み・運営体制をつくる」を位置付けています。 これにもとづき、幕張新都心で活躍する企業や既存団体等と意見交換を重ね、まちづくりの担い手となるエリアマネジメント団体の組成等に向けた準備を進めてまいります。	—
21	資料3	5-1 都市の魅力 を高める	p. 5	海浜幕張駅周辺エリア	幕張について、寂びれた印象は実感したところ。 考察を踏まえ、今後どうしていくのかをお聞きしたい。	石丸委員		
22	資料3	5-2 地域経済を 活性化する	p. 15	起業しやすい環境がある	起業について、男女別や職種別の統計があるとよい。 女性の方がより厳しい状況にある状況にあるため、業態や分野、性別にどのような違いがあるのかを把握することで、より実効性の高い評価につながると思われる。	浅野委員	ご意見のとおり、起業の促進にあたり、属性分析等を行うことは重要と考えております。 全国的な統計データや事業のなかで把握する起業者のニーズも踏まえながら、今後とも事業展開を図ってまいります。	—
23	資料3	5-2 地域経済を 活性化する	p. 16	起業しやすい環境がある	スタートアップについて、横浜市とさいたま市との比較で遜色ないとしているが、県内では柏市が中心となっている。 柏市の後塵を拝しているところもあるので、その辺りもしっかりと認識し、スタートアップに力を入れてほしい。	松永委員	ご意見のとおり、千葉市においても魅力ある起業支援を行っていくことが重要と考えております。先行する県内自治体等の状況も注視し、創業者のニーズを踏まえながら事業ステージに応じた支援を検討・実施してまいります。	—

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
24	資料3	5-2 地域経済を 活性化する	p. 17	廃業率	<p>廃業→事業承継というアプローチもある。施策に「事業承継の推進、支援」があるのかどうか資料からは見えなかったが、それによって経済を継続していくことも重要である。</p>	鈴木委員	<p>地域の活力を維持するためには、中小企業等の事業承継が重要であると認識しており、次期実施計画において、事業承継支援の取組みを検討しているところです。ご意見を踏まえ、事業承継の支援に関する記述を追加します。</p>	<p>P20考察 2ポツ目</p> <p>・一方で、全国の休廃業・解散企業における代表者の年齢構成をみると、60代以上が7割弱を占めており、今後の人口構成の変化を踏まえると、経営者の高齢化が構造的な課題であることから、<u>中小企業等の事業承継支援を充実する必要がある。</u></p>
25	資料3	5-3 都市農林業 を振興する	p. 27	いずみグリーンビレッジの3施設	<p>アンケートについて、農産物直販所、飲食店、市民農園と3施設がだぶっているのでは、3施設の正確な評価はできないのではないか。</p> <p>例えば、 富田さとにわ＝農業体験 下田農業＝直販所、飲食店、収穫体験 中田やつ＝市民農園</p> <p>これらの3施設については別の質問内容でないと評価は難しい。また、収穫体験、農業体験は選択肢にいれるべき。これらの施設には、農業者の組合によって運営されているものもあり、それらのマンパワー的には来場者の受け入れは限界があるということも聞いている。知名度を上げるのにPRが必要とは簡単に言えるが、運営側のオペレーションとのバランスも必要であるので、慎重な評価が必要となる。</p>	鈴木委員	<p>ご意見を踏まえ、アンケートの内容について市民にとって分かりやすく、正しく評価されるよう記載について検討をまいります。</p> <p>都市農業交流施設については、市民の皆様により親しまれる施設となるよう引き続き指定管理者とともに事業を進めてまいります。</p>	—